



県道611号(大山板戸)
道路改良事業に伴う発掘成果

こやす おおつほ 子易・大坪遺跡 (伊勢原市No.123遺跡)

縄文時代の集落跡を発掘

こやす おおつほ
子易・大坪遺跡の発掘調査

子易・大坪遺跡は伊勢原市子易、鈴川南側の段丘上に所在し、神奈川県平塚土木事務所が計画する県道611号(大山板戸)道路改良事業に伴う事前調査として、2009年2月から断続的に発掘調査を行っており、今年が最終年度に当たります。

今まで1～3地区の調査を行い、中・近世、古代、弥生時代、縄文時代の遺構・遺物が見つかっています。今回は1地区における縄文時代の調査成果を紹介します。

1地区の縄文時代の調査成果

1地区は南側台地(平坦部)と北側斜面からなり、縄文時代には北側斜面に谷が存在していました。谷からは縄文時代の土器や石器が大量に出土し、中期～後期には土器などの捨て場であったと思われます。後期になると谷が埋まり、南側台地(平坦部)から斜面にかけて、床面に石を敷いた敷石住居数軒と石積などが作られました。



敷石住居と石積の全景(北東から撮影)

これまでの主な発見遺構と出土遺物

——発見遺構——

中・近世:溝、地下式坑、段切状遺構
など

古代(奈良・平安時代):土坑 など

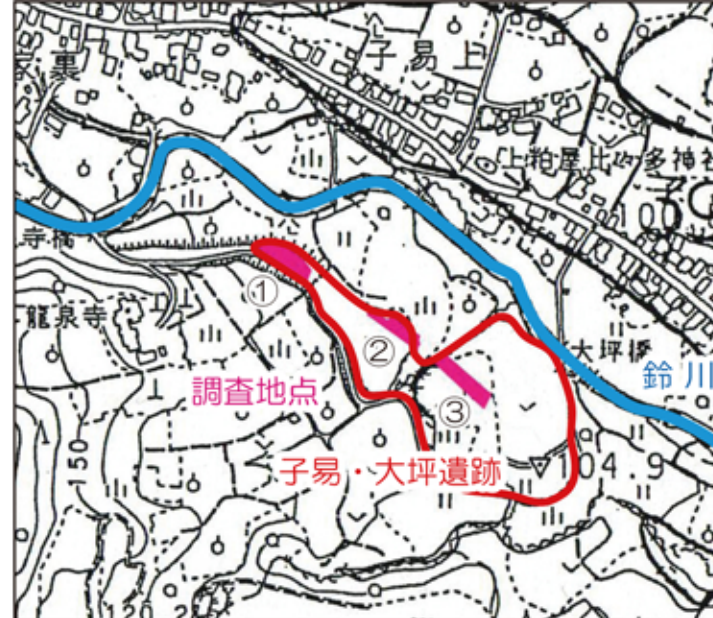
縄文時代:敷石住居跡、石積、住居跡、配石墓、立石、埋甕、
焼土跡、土坑 など

——出土遺物——

中・近世:陶磁器、かわらけ、宋銭
など

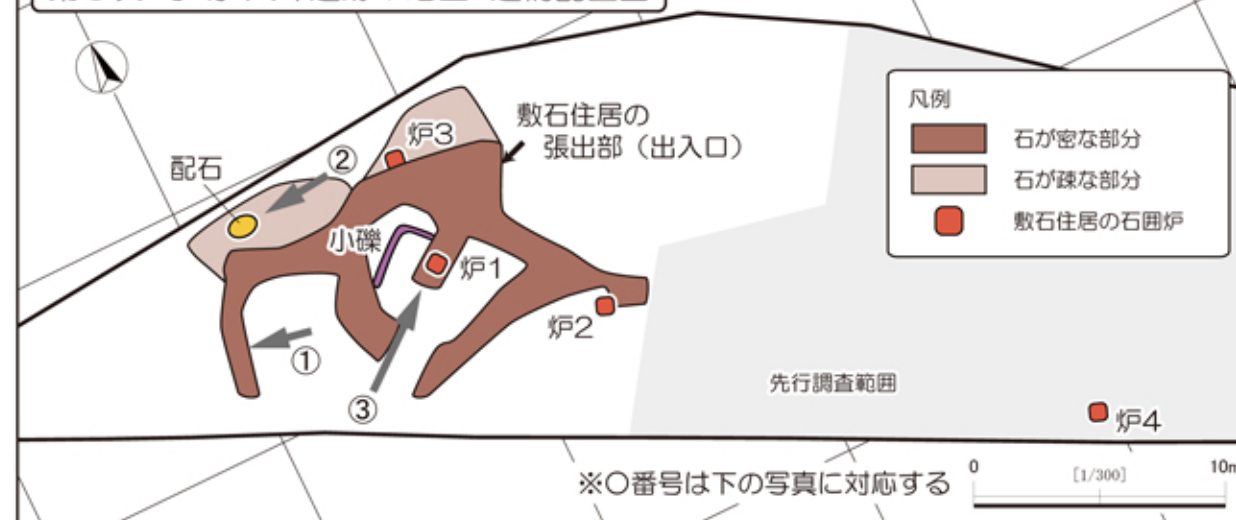
古代(奈良・平安時代):土師器 など

縄文時代:縄文土器、打製石斧、磨製石斧、石製耳飾、石棒、
石皿、石鏃 など



遺跡の位置

第3次 子易・大坪遺跡1地区 遺構配置図



①調査区西側の石積



②長方形に配された配石



③敷石住居(手前が炉1、奥が張出部)

斜面に作られた敷石住居(炉1～3)には時間差が認められます。一番新しい住居は炉1を伴い、張出部(出入口)をもち、炉をとり囲むように小礫が方形に配され、その外側に大形の石が方形に巡っています。また大形の石が住居をつなぐように列状に並んだ部分や、2～3段積まれた石積もあります。石が長方形に配された配石も確認されました。



県道611号(大山板戸)
道路改良事業に伴う発掘成果

子易・大坪遺跡(伊勢原市No.123遺跡)

2010年 12月 23日

財団法人 かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市内南区中村町3-191-1

およその年代

35000年前

15000年前

2500年前

1700年前

1300年前

800年前

400年前

1500年前

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

古代

中世

近世